

コストと人的負担。映像コンテンツ制作の2大課題を解決!

動画制作のハードルを下げた「HDMIキャプチャー」



インターネットを用いた通信制大学を展開していることもあり、2008年からeラーニングを授業に導入している学校法人 大手前学園 大手前大学様。近年、科目数の増加などを背景とし、いかに手軽に、かつコストを抑えて映像コンテンツを制作するかが課題になっていました。その解決のために導入されたのが、PCで制作したスライドをフルHDでキャプチャー保存し、音声も同時に録音できるGV-HDRECです。導入の経緯と効果、今後の展望について、大手前学園 大手前大学の西尾信大様と辻井美奈様にお話を伺いました。

導入商品

HDMI/アナログキャプチャー
GV-HDREC

関連商品(法人様向け)

HDMI/アナログキャプチャー ビジネスモデル(集音マイク付)
GV-HDREC/B



eラーニングの映像コンテンツ制作を低コスト・省力化するために、本機を導入。

—— そもそもeラーニングを始められたのはどのような経緯だったのでしょうか。

辻井様 | 本学では、建学の精神として「STUDY FOR LIFE～生涯にわたる、人生のための学び～」を長く掲げてきました。生涯学習の先に通信教育があると捉えて通信教育部をつくることになりました。やるからにはインターネットを使おうと考え、2008年にはeラーニングの運営やデジタル教材の制作を子会社に任せる体制をとり、学内にも専門のスタジオを設けました。

西尾様 | 学生が一度も教室に出て来なくても、しっかり学習ができ成績もつけられる、ということを確認したうえで、2010年から正式に通信教育部をスタートさせました。はじめは教科書とデジタル教材を併用していましたが、4年目からはいよいよインターネットがメインとなり、さらにたくさんの教材が必要になってきました。このことがやがて複数の課題へとつながっていきます。

—— 課題とは、具体的にどのようなものが出てきたのでしょうか。

辻井様 | 初期のころは、たとえばニュース番組のような、教員の背景に動画を合成する方式をとっていました。しかし制作するのに1年は掛かり、CGや画面合成する専門スタッフの件費もかさむ。1科目あたり数百万円になることもあります。通信教育部には150科目ほど必要なので、相当なコストになってしまいます。

西尾様 | またあるとき、地球環境系の教材を制作した際に、時勢の影響で内容をコロッと変える必要が発生しました。語学や哲学など変化の少ないものはいいのですが、環境やIT系など世相によって変化するようなテーマについてコストを掛け過ぎるのは現実的ではない、という話になってきたのです。

もう一点、教員の手間をいかに下げるかも大きな課題になっていました。凝ったものをつくらうとすると、だんだんと負担が大きくなっていく。先生が自身のペースで授業をつくれる仕組みを探していた時に、発見したのがビデオキャプチャー「GV-HDREC」です。

—— 西尾様がWebで見付けられたことが本機導入のきっかけと伺いました。

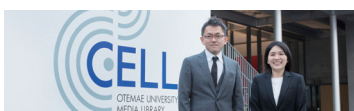
西尾様 | 実は、アイ・オー・データさんの直販サイト、アイオープラザのセールで見付けました(笑)。調べてみると、パソコンの画面だけでなく、HDMI出力であればSDカードに動画で保存することができるので、「これだ!」と。最近はパワーポイントのスライドをベースとした授業も多く、スライドに音声を付けて動画にすることでeラーニングの映像コンテンツを手軽に制作できるのではないかと発想しました。専用スタジオを使った本格的な映像コンテンツまでは不要な授業であれば、大幅にコストカットができる。実際に本機を試してみると問題なく動画が撮れました。HDなので画質が悪くなることもない。しかも安価。これなら買っちゃえ!と、3台ほど一気に導入しました(笑)。



情報メディアセンター 課長
西尾 信大 様

情報メディアセンター
辻井 美奈 様

裏面へ続く



学校法人 大手前学園 大手前大学様

大手前大学に「総合文化学部」「メディア・芸術学部」「現代社会学部」「健康栄養学部」を擁し、2019年度からは日本初の「国際看護学部」を設置。「現代社会学部 現代社会学科」には通信教育部を設ける。その他、短大、専門学校も展開し、多様な学びの要望に応えている。

◎所在地：兵庫県西宮市御茶家町6-42 ◎ウェブサイト：https://www.otemae.ac.jp/

自宅でコンテンツ制作できるほど簡易化! 先生の負担を徹底軽減。

— 実際に「GV-HDREC」を使ってどのように映像コンテンツ制作されているのですか。

「西尾様」 ITが得意ではない先生も多いので、本機だけでなく、SDカード・HDMIケーブル・確認用の小型モニター・録音用のヘッドセットをパッケージ化してお渡します。制作の最初には、教育工学に基づいた授業設計やスライド作りを、専門スタッフがアドバイスしますが、あとは、「数か月預けるから自分のやりやすいものをつくってください」と依頼するだけです。先生はあらかじめパワーポイントで資料をつくっておき、自分のパソコンと本機をつなげて、資料をスライドさせながら自身の声で説明音声を付ける。それがSDカードに動画で保存される、という仕組みです。保存した動画は再生ボタンを押すとすぐに小型モニターで確認できますので、ミスがあれば録り直しも容易です。

— 先ほど課題に挙げられた、先生の負担軽減にはつながりましたか。

「西尾様」 大学は非常勤の先生も多く、遠方にお住まいの方も多い。この仕組みによってご自宅で自身の好きなペースでコンテンツ制作が可能となり、圧倒的に負担が軽減されましたね。

— 先生がご自宅で、お一人で使われる際に、使えなかったということはなかったですか。

「辻井様」 これまでのところ使えなかったという方はいませんでした。開始・停止のボタンを押すだけで録れる。機能が多過ぎないのがいいんです。

「西尾様」 東京在住の非常勤の先生に送ったら、「すごいいいので自分でも買おうよ」と。他大学でも授業をされているので、そこでも使えるかもしれないし、投資としては安価すぎる、とってくださいました。

GV-HDREC の接続図



資料に説明音声を付ける



最少の手間で最大の効果を発揮! もっと多様な映像コンテンツの活用へ。



— 制作されたコンテンツの仕上がりと反響はいかがですか。

「西尾様」 最近多い、スライドベースの授業では、文字が正しく見えて音がきちんと聞こえていれば、eラーニングの教材としては充分のはずです。その点「GV-HDREC」で制作した動画はスムーズに画面のスライドが進んでいきますし、画質も全く問題ない。説明音声も付いている。学生からの反応も変わりなく、何の機材で録っても教育効果は変わらないという時点で我々の狙いは成功です。

「辻井様」 ほかに、近隣の大学との連携で勉強会を時々行っているのですが、本学がどのようにして教材をつくっているかお話しする際に、本機を軸とした3万円コースから専用スタジオを活用した数百万円コースまで録画機材を並べたんです。高価なものは「すごいね」と言われるだけであまり興味を持たれない。皆さんの関心を惹くのはやはり本機のセットです。「これいくら」「どこで売ってるの」「まず試しに入れてみたい」「これが一番参考になります」との質問や意見がありました。動画の教材をつくるハードルが、本機によって大きく下がったと感じた瞬間でした。

— 本機を使って今後もっとこうしたいなどの展望がありましたら、お聞かせください。

「西尾様」 このシステムを、休講時の補講に対する解決策としても考えています。2018年は関西に地震や台風などの災害も多く、補講の日程を確保することがたいへんでした。補講を動画にすることで解決できるのではないかと考えたのは学校側も持っていたのですが、ではどうやって収録するのか?教室にビデオカメラを置いて録っても板書が読めない。パソコンの画面をビデオカメラで録ると白飛びして読めない。それが、本機を使うことで解消するのではないかと。

「西尾様」 スティック型PCと組み合わせても面白い。出力がRGBしかないパソコンをお使いの先生のために使ってみたい。ノートパソコンよりも手軽にお送りできますし、スティック型PCであれば、自身のパソコンでつくったスライドをmicroSDでコピーして使っていただけるわけなので。

— そういった展開を支えるのも、「GV-HDREC」による動画制作の手軽さというわけですね。

「西尾様」 たとえば、動画をつくるうえでもう少しだけ凝りたい場合には、画角の広いカメラとスイッチャーをつないで、スライドと先生の顔を切り替えたコンテンツにすることもできます。もちろん先生の顔をワイプにすることも可能です。こうした編集作業にパソコンが不要なのも本機のメリットですね。もっと簡単に、当たり前のように映像コンテンツをつくってもらえるような仕掛けを、これからも追求していきたいですね。



【法人各種お問い合わせ】

下記Web サイトのお問い合わせフォームよりご連絡ください。

<https://www.iodata.jp/contact/>



進化する明日へ Continue thinking

株式会社 アイ・オー・データ機器

ホームページ <https://www.iodata.jp/>